

一般社団法人日本医真菌学会
2021年度(2021年9月~2022年8月)第3回理事会議事録

日時：2022年7月28日(木)18:00~21:00(オンライン開催)

Web出席：

澁谷和俊(理事長)

泉川公一、大野尚仁、亀井克彦、杉田 隆、原田和俊、福田知雄、槇村浩一、宮崎義継、
望月 隆 以上理事10名

小川祐美、村山琮明 以上監事2名

掛屋 弘、金子健彦、山岸由佳、若山 恵 以上幹事4名

欠席：神田善伸(理事)、三嶋廣繁(幹事)

議題：

1. 前回理事会議事録確認(宮崎総務理事)

前回理事会議事録の確認を行った。

2. メール審議結果報告(澁谷理事長)

第3回~6回のメール審議の結果を確認した。

3. 会員異動報告(宮崎総務理事)

2022年6月30日時点の会員数の報告があった。合計で934名となり、大きな変動はなかった。

4. 各種委員会報告

1) 編集委員会(宮崎理事)

①2021年9月~2022年7月の論文投稿状況について報告があった。

②2022年日本医真菌学会優秀論文賞の選出について下記報告があった。

1) Authors: Sanae Kurakado, Yasuhiko Matsumoto, and Takashi Sugita

Title: Efficacy of Posaconazole against *Rhizopus oryzae* Infection in Silkworm
(Medical Mycology Journal Vol. 62 No. 3 に収録)

2) Authors: Takeshi Mori, Hiroshi Abe, Mitsutaka Yoshida, Yutaka Tsukune, Yuriko Yahata,
Tomoiku Takaku, Jun Ando, Miki Ando, Shinichi Torii, and Makoto Sasaki

Title: Immunohistochemical Detection of Aflatoxin in Lesions of Aflatoxin-producing
Aspergillus flavus Infection
(Medical Mycology Journal Vol. 62 No. 3 に収録)

③第65回学術集会におけるシンポジウムの演者(会員)への執筆依頼を行い、14名より承諾を得た。

④インパクトファクター

2022年6月28日にクラリベイト・アナリティクス社より“Journal of Citation Index”(JCR)
2022年版のリリースが発表されたが、今回もインパクトファクターは獲得できなかった。昨年
よりMMJが収録されている“Emerging Sources Citation Index”(ESCI)もJCRの収録範囲に

含まれるようになったことから、より検索にヒットしやすくなっており、引用率を上げることでインパクトファクター取得につながるものと期待される。引き続き、インパクトファクター獲得のため、MMJ 掲載論文の引用が呼びかけられた。

2) 用語委員会 (大野理事)

シリーズ 用語解説 (No. 34, 35) を Medical Mycology Journal に掲載した。

用語解説 (No. 34) : 好獣性皮膚糸状菌, メモリーT細胞

数理モデルによる薬剤精密用量

用語解説 (No. 35) : 自己誘導因子, 毛髪穿孔試験, 機械学習・深層学習

委員による査読過程を経て、編集事務局に提出された。現委員での分担執筆は No. 36 までの予定である。

3) 将来計画委員会 (神田理事 : 欠席)

報告事項なし。

4) ガイドライン検討委員会 (泉川理事)

希少真菌症診断治療のガイドライン (仮称) 作成委員会 (掛屋幹事)

作成作業が遅れているが、原稿のとりまとめを進める予定である。第 66 回総会では、本ガイドラインの内容に関するシンポジウムを行う。

5) 支部会・関連学会委員会 (泉川理事)

過年度から現在までの開催状況と今後の開催予定について説明があった。また、各研究会の主催または共催による補助金の支出状況についてまとめることとなった。

6) 疫学調査委員会 (福田理事)

2021 年次皮膚真菌症疫学調査の進捗状況について報告された。疫学調査協力 20 施設のうち、既にデータが送られてきているのは 18 施設である。倫理審査の関係で提出ができない施設が 1ヶ所あることが報告されたが、この施設については榎村理事に確認を依頼した。次年度にはレポートを公表する予定である。

7) 教育委員会 (杉田理事)

第 10 回皮膚真菌症指導者講習会の対面実習は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑みて中止としたが、第 9 回の講習会動画を学会ホームページで公開したことが報告された。

8) 広報委員会 (榎村理事)

第 9 回皮膚真菌症指導者講習会の講習会動画の周知を行う予定である。ただ、ホームページの直リンクができないため、YouTube のリンクをまとめて発信するなど方法を検討する。

9) 専門医・認定師委員会 (原田理事)

後述する。

10) 規約検討委員会 (澁谷理事長)

後述する。

11) 倫理委員会 (原田理事)

報告事項なし。

12) 利益相反委員会（亀井理事）

日本医学会からも特に動きがなく、特に報告事項はない。

13) バイオセーフティー委員会（村山監事）

後述する。

5. 第 65 回総会報告（宮崎理事）

収支計算書が提示され、収支報告があった。

6. 第 66～68 回総会報告（各会長）

1) 第 66 回総会報告（三嶋幹事：欠席）

収支予算が提示された。

会期：2022 年 10 月 1 日（土）～10 月 2 日（日）

会場：長良川国際会議場

2) 第 67 回総会報告（福田理事）

開催概要について報告があった。

会期：2023 年 10 月 6 日（金）～10 月 7 日（土）

会場：川越プリンスホテル

3) 第 68 回総会報告（杉田理事）

APSM と合同開催とし、第 68 回総会は後半の日程での開催を予定している。

会期：2024 年 11 月 6 日（水）～9 日（土）

会場：国立京都国際会館

7. 関連国際学会・会議に関する報告（杉田理事）

杉田理事より報告事項はなく、宮崎理事より ISHAM において日本から 2 セッションを予定していることが報告された。続いて、澁谷理事長より ISHAM Vice President の選挙結果について報告された。

8. ICD 制度協議会報告（金子幹事）

ICD 資格更新要件の変更、運営費の増額、講習会の受講費徴収について継続審議となっていることが報告された。

9. 内保連報告（山岸幹事）

2022 年度第 1 回内保連社員総会（2022 年 6 月 28 日開催）に出席したことが報告された。

10. 日本医学会連合社員総会・日本医学会臨時評議員会報告（宮崎理事）

日本医学会連合社員総会・日本医学会臨時評議員会（2022 年 6 月 29 日開催）に澁谷理事長代理で出席したことが報告された。日本医学会では男女共同参画委員会をダイバーシティ&インクルージョン推進委員会に呼称を変更することとなった。また、第 32 回日本医学会総会の会長が澤芳樹先生（大阪大学）に決定した。さらに、9 月 30 日を期日として、第 31 回日本医学会総会奨励賞の推薦を募集しており、40 歳未満の研究者の推薦が呼びかけられた。

11. 医学会連合女性医師支援担当者連絡会に関する報告（小川監事）

報告事項なし。

12. 日本微生物学連盟に関する報告（杉田理事）

報告事項なし。

13. 理事・代議員選挙に関する報告（若山幹事）

2022年3月29日の代議員選挙ならびに理事長推薦により、次期代議員に選出された82名について報告があった。続いて2022年6月10日の理事選挙の結果、当選となった9名について報告された。

以下次期代議員82名（五十音順・敬称略）

基礎領域	臨床領域	
安達 禎之	足立 真	田代 将人
石橋 健一	天谷 雅行	田邊 洋
市川 智恵	荒岡 秀樹	常深 祐一郎
梅山 隆	五十棲 健	時松 一成
金子 健彦	池田 志孝	徳久 弓恵
金子 幸弘	石崎 純子	戸根 一哉
加納 壘	泉川 公一	中村 茂樹
金城 雄樹	小川 祐美	長尾 美紀
倉門 早苗	掛屋 弘	二宮 淳也
古賀 裕康	河井 正晶	野口 博光
佐藤 一朗	神田 善伸	畑 康樹
澁谷 和俊	北見 由季	原田 和俊
清水 公德	木村 有太子	福田 知雄
杉田 隆	木村 俊一	福山 國太郎
鈴木 裕子	清祐 麻紀子	松田 哲男
高島 昌子	串間 尚子	丸山 隆児
張 音実	小林 裕美	三嶋 廣繁
知花 博治	齋藤 磨美	光武 耕太郎
豊留 孝仁	佐々木 結花	宮崎 泰可
中村 遊香	佐藤 俊樹	宮崎 義継
萩原 大祐	佐藤 友隆	迎 寛
槇村 浩一	下野 信行	森 毅彦
松澤 哲宏	下山 陽也	山岸 由佳
松本 靖彦	須賀 康	山田 七子
矢口 貴志	高園 貴弘	山本 善裕
山田 剛	瀧本 玲子	吉田 耕一郎
若山 恵	竹田 公信	渡辺 哲
	竹中 基	

以下理事9名（五十音順・敬称略）

基礎領域：澁谷 和俊、杉田 隆、槇村 浩一、矢口 貴志

臨床領域：泉川 公一、原田 和俊、福田 知雄、宮崎 義継、山岸 由佳

14. 転載・複写利用許諾に関する報告（澁谷理事長）

2021年以降に発行されたガイドラインについては、転載・複写利用料を設定して運用していくことが報告された。転載については図表・サマリー1点につき10万円（サマリー内の図表は1点ずつ数える）、複写については、定価に対する1ページあたりの単価に、複写ページ数と配布部数を乗じて算出する。

15. クリニジェン社からの依頼について（泉川理事）

ファンギゾン注射用50mgを取り扱っているクリニジェン株式会社より、海外に製造所を移転する手続きに時間を要し、供給が一定期間滞る可能性があるとして学会に相談があり、泉川理事が対応したことが報告された。当初は6月に出荷停止してから再開まで1年ほどかかる可能性があるという話であったが、早い段階で厚生労働省の認可が下りる予定であり、9月ごろには出荷再開の見込みとなり、同社が引き続き販売するとのことであった。

16. その他

澁谷理事長より、日本医学会連合の門田守人会長を代表とした厚生労働科学研究費補助金事業において、日本医真菌学会が約1,000万円の研究費を獲得したことが報告された。

審議

17. 2021年度事業報告案・2022年度事業計画案（宮崎総務理事）

2021年度（2021年9月～2022年8月）事業報告案および2022年度（2022年9月～2023年8月）事業計画案が提示された。異論はなく承認された。

18. 2021年度決算見込みおよび2022年度予算案（望月財務理事）

6月30日時点での決算見込みと次年度予算案について説明があった。ガイドライン転載許諾料で約920万円の収入があり、約830万円の黒字で当期は決算する予測である。ガイドラインに関する事業は収益事業とみなされるため、租税公課が例年より増える見込みである。

2022年度予算案については、概ね前期予算と大きく変動はないが、2022年度に希少真菌症ガイドラインの刊行を予定しており、支出として印刷費を計上し、収入として販売収入、転載許諾料を計上した。

以上を踏まえて、2021年度決算見込みおよび2022年度予算案は異論なく承認された。ただし、収益事業収入が大きいため、科目を細分化し租税公課を抑えることができるか会計士に相談し、変更がある場合は次回理事会で審議することとした。

19. 専門医認定および認定専門医規則の件（原田理事）

1) 2022年度専門医審査結果

新規2名、更新10名を合格としたことが報告され、異論なく承認された。

新規（2名）

神崎 美玲 東京医科大学茨城医療センター

山西 千晶 枚方総合発達医療センター

更新（8名）

佐藤 友隆、凌 太郎、田代 将人、野口 博光、平野 勝治、宮崎 泰可、山口 さやか、吉田 耕一郎

更新 65 歳以上（2 名）

伊藤 章、東 禹彦

2) 認定専門医規則の改定について

現行の規則では医真菌学会総会に参加することなく、専門医の更新が可能となっているが、更新期間の 6 年間に最低 2 回は総会への参加を必須にすることが提案され、以下の改定が異論なく承認された。

現条文	改定案
<p>(専門医資格更新の後実績)</p> <p>第 13 条 次の各項における各々の業績を単位として評価し、6 年間の総計が 30 単位をこえるものとする。ただし以下の条件により難しい場合には、個別に委員会において評価する。</p>	<p>(専門医資格更新の後実績)</p> <p>第 13 条 次の各項における各々の業績を単位として評価し、6 年間の総計が 30 単位をこえるものとする。<u>さらに、総計の内訳として、日本医真菌学会総会の出席単位が 12 単位以上含まれていることを要する。</u>ただし以下の条件により難しい場合には、個別に委員会において評価する。</p>

20. 学会賞選考の件（杉田理事）

下記 2 名の推薦があり委員会で審議した結果、両名を受賞資格ありと認めた。異論はなく両名の受賞を承認した。

候補者：三嶋 廣繁（愛知医科大学大学院医学研究科 臨床感染症学 教授）

受賞業績：侵襲性カンジダ症の病態、診断、治療に関する研究

候補者：矢口 貴志（千葉大学 真菌医学研究センター 准教授）

受賞業績：病原真菌の分類学的研究とその多様性解析

21. 名誉会員および功労会員の推薦（澁谷理事長）

細則に従い、以下名誉会員 3 名、功労会員 12 名が推薦され、就任いただくことを理事会の総意とした。

(敬称略、五十音順)

名誉会員 対象者	氏名	シメイ	所属
	清 佳浩	セイ ヨシヒロ	帝京大学
	吉田 稔	ヨシダ タカシ	帝京大学
	渡辺 晋一	ワタベ シンイチ	帝京大学

(敬称略、五十音順)

功労会員 推戴者	氏名	シメイ	所属
	磯沼 弘	イソノマ ヒロシ	順天堂大学
	大野 尚仁	オノ ノボヒト	東京薬科大学
	角谷 廣幸	カクタ ヒロユキ	あいおい皮膚科クリニック
	亀井 克彦	カメイ カツヒコ	石巻赤十字病院
	川上 和義	カガミ カズヨシ	

	佐野 隆夫	サノ タカ	サノ皮膚科クリニック
	鈴木 薫	スズキ カル	鈴木ヒフ科
	清島 真理子	セイシマ マリコ	朝日大学病院
	竹末 芳生	タケスエ ヨシオ	常滑市民病院
	出光 俊郎	デミツ トシオ	自治医科大学附属さいたま医療センター
	村山 琮明	ムラヤマ ソウメイ	国立感染症研究所
	望月 隆	モチヅキ タカシ	金沢医科大学

22. 真菌の薬剤感受性検査の現状調査等について（澁谷理事長）

真菌の薬剤感受性試験で使用される市販のプレートに添付している操作マニュアルには、米国 CLSI が 2008 年に発表した方法が記載されており、最新の測定法とは異なっている。企業にも添付文書の改訂を求めているが、改訂には時間がかかるため、学会からアナウンスを行う必要があるのではないかと亀井理事より提案があった。本件に対応するため、亀井理事に学会提言策定を依頼した。その結果、日本臨床微生物学会と共同コメントを作製するための活動を行うこととなった。

23. 個人情報秘匿の記載法について（澁谷理事長）

学会抄録や論文での病歴表記について、個人情報秘匿の記載法に施設間での大きなばらつきがあるが、具体的な雛形の例示はされていない。記載法を事前に明示することで、演題不採択あるいは修正を求める手続きが妥当であることから、日本病理学会等の指針を一部改変して日本医真菌学会の指針として運用することが提案され、次回理事会で審議することで賛同を得た。

24. 日本医学会総会奨励賞候補者推薦について（宮崎理事）

前述の通り、日本医学会総会奨励賞候補者の推薦が呼びかけられた。

25. 若手研究者の奨励基金について（澁谷理事長）

審議議題 17. 予算案で承認されたため、審議省略とした。

26. 日本医真菌学会細則の条文の改定について（澁谷理事長）

第 6 回メール審議にて継続審議となった日本医真菌学会細則の条文の改定については、名誉会員、功労会員の会費を免除するより、若手会員への負担を軽くした方がよいとの意見もあり、引き続き継続審議とした。

27. メール代議員総会報告と顕彰制度規約の最終案について（澁谷理事長）

第 6 回メール審議で承認された従来の奨励賞に関する規約の廃止と顕彰規約の新設について、メール代議員総会においても承認されたことが報告された。また、代議員からの意見を反映し、文言を修正、および次世代研究者賞に副賞を授与することに修正した最終案が提出され、異論なく承認された。さらに、学術賞および次世代研究者賞の選考委員長に大野理事が互選により選任された。早急に委員選考、受賞候補者の推薦依頼を進めることとした。

28. その他

1) 収益事業の租税公課について（澁谷理事長）

澁谷理事長より、租税公課についての税理士の見解について資料が提示され、通覧を依頼した。

2) ガイドラインの制作・刊行にかかわる契約書案について（事務局）

事務局より、(株)春恒社との編集事務業務委託契約書に、ガイドライン刊行に関わる費用について事項を追加する提案があった。費用は侵襲性カンジダ症のガイドライン刊行時と同程度とする。また、転載許諾処理に関する事務手数料および、販売に関する事務手数料を追加する。詳細については検討し、随時進めることとした。

3) 理事選出細則の改定について (宮崎理事)

議長の澁谷理事長は当事者であるため、一旦退席し、宮崎理事に議長を交代した。理事選出細則に「理事長の任期は定款に従い、重任は妨げないが再選までとする」とあるが、これに従うと澁谷理事長は今期で退任となる。更に1期重任していただくのはいかがでしょうかと宮崎理事より提案があった。各理事より賛同を得て、3期まで重任可能となる細則改訂を検討し、次回理事会で審議することとした。

4) 若手研究者を対象とした研究支援について (澁谷理事長)

若手研究者を対象とした研究支援を学会活動の一環として開始したい。研究寄付金を創設し、応募者から先行して給付する手続きを作成し、理事会での審議をお願いしたい。原資として、ガイドライン等の学会著作物の転載許諾料やガイドライン販売収入を充当する。可能であれば次年度から運用したい。

29. 報告事項での審議事項

1) 用語委員会 (大野理事)

第5回メール審議にて継続審議となっていた、菌名カタカナ表記の追加修正については様々な意見があり、カタカナ表記を定義することは公文書を使用する機関から求められている一方で、学会が表記を定めることは他の表記を否定することに繋がるという点が議論された。現時点で意見をまとめることは困難であるため、継続審議として、今後の委員会で検討することとした。

2) 教育委員会 (杉田理事)

第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会でのシンポジウム(共催)、第96回日本細菌学会総会でのシンポジウム(共催)について審議し、承認された。

3) バイオセーフティー委員会 (村山監事)

真菌のバイオセーフティレベル分類について、パブリックコメントを反映した修正案が提案された。その結果、*Candida africana*を*Candida albicans*のsynonymとする修正を加えて承認され、速やかに公開を進めることとした。

以上

2022年8月22日

議事録作成人 澁谷和俊

議事録署名人 小川祐美

議事録署名人 村山琮明